

小中一貫校 南アルプス市立白根飯野小学校令和6年度前期学校関係者評価書

【学校関係者評価委員会】

- 1 実施日 令和6年9月6日
- 2 会場 白根飯野小学校イングリッシュルーム
- 3 参加者

(1) 学校関係者評価委員

NO	氏名	役職
1	市川 和郎	元校長・学校評議員
2	飯野 久	学校評議員・南アルプス市議会議員
3	飯田 哲夫	元校長・学校評議員
4	菊池 健児	学校評議員・PTA 会長
5	飯野 芳重	飯野地区自治会長
6	仲川 芳治	飯丘地区自治会長

(2) 学校職員（3名）

NO	氏名	役職	備考
1	保坂 泉	校長	本校在籍1年目
2	瀧澤 智子	教頭	本校在籍2年目／事務局
3	飯野 めぐみ	教務主任	本校在籍2年目

4 学校から提案した内容

- (1) 教職員による前期自己評価アンケートの状況
- (2) 学校生活に関する前期児童アンケートの状況
- (3) 学校生活に関する保護者アンケートの状況
- (4) 白根飯野小学校前期自己評価書（アンケートの分析及び改善方策について）

5 学校関係者評価委員会報告概要

本校の学校評価は、学校教育目標の実現（学校経営方針の実現に向けた本年度の努力点）のための取組状況を、教職員による自己評価に加え、保護者と児童によるアンケート調査結果を活用する中で、それぞれの立場を踏まえるとともに、これらに関わる設問に寄せられた意見や、日常的に行っている児童観察も加味して分析し考えている。

なお、今回の調査は1学期の取組が根拠となる。

[1] 評価基準

全体傾向を把握するため、A B評価を肯定的評価とし、それらの合計が、80%を超え

ている場合は『満足できる状況』と判断した。また、CD評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある状況』と判断した。

(A: そう思う B: だいたい思う C: あまり思わない D: そう思わない E: わからない)

[2]各項目の分析

(1)「確かな学力」について

1学期は、校内研究のテーマ「対話し、学び、わかちあう子どもの育成～指導と評価の一体化を通して～」を軸に、児童間の関わりを基盤とし、学習プロセスや言語活動を重視した授業展開によって、主体的・対話的で深い学びの実現を図ってきた。特に昨年度から力を入れているICTの活用や、指導と評価の一体化を目指してきた。

教職員自己評価の結果を見るとほぼすべての項目が肯定的な回答となっている。「児童が、素直な心で、自分の考えや疑問を何でも伝えられる生き生きとした学習を創造することができたか。」「児童が、友達の考えや感想に耳を傾け、多様な考えを大切にした対話的な深い学習を創造することができたか。」の項目についても、肯定的評価が100%となった。この結果から、教職員が、聴く姿勢や伝え合う活動を大切に、コミュニケーションを高める学習を創造できたことが伺える。今後も、職員の学び合いを活発に行い、学習形態（ペア学習・グループ学習等）を工夫しながらコミュニケーション能力を育み、協働的な学びと個別最適な学びを深める実践を行うとともに互いに指導力を高め合い、児童の情報交換を行い教職員間の共通理解を深め、実践を進めていきたい。

保護者の回答では、「4 子どもは、家庭でも宿題や自主学習・読書など学習する習慣がついている。(83%)」の項目で、他の項目と比較して低い肯定的回答となっている。家庭学習の習慣化や充実をめざし、「家学がんばり週間」を継続的に行ってきたが、今後も学校と家庭が連携を図りながら取組を進めていく必要がある。また、引き続き家庭学習の一助として端末の持ち帰りも引き続き計画的に行っていきたい。

(2)「豊かな心」について

教職員は、すべての項目において90%以上のA評価が得られた。特に「いじめや不登校への対応や防止に取り組むことができたか」「相手の立場に立って考える体験を重ね、自分がされて嫌なことを言ったりしたりしないで子どもをそだてることができたか」という項目は、100%の肯定的な評価となっている。このことから、教職員がいじめ不登校について意識を高め、児童と向き合い、相手の立場になって考える姿勢を大切に児童に働きかけてきた事がわかる。前年度課題となっていた「居場所づくり」や「縦割り活動」「好感を与える所作や言動、挨拶」についても、90%を超える肯定的評価となり、良い結果となった。教職員の意見には「学級内では、児童同士で自分の気持ちを伝えることを意識して指導した。自分だけの気持ちだけでなく、相手の気持ちを考え行動できるよう継続して指導していきたい。」「目上の人に敬語を使える練習を2学期にはさらに増やしていきたい。」きちんと挨拶できる児童を、もっと

増やしたいと思う。児童会での取り組みや、日々の声掛けを諦めずに続けていきたい。」「心理的安全性を担保できる環境を整えていく必要を感じた。自分の気持ちを素直に表現することができる教室を創っていきたい。」と2学期に向けて児童に付けたい力を具体的に述べている職員も多く、目的意識をもって子どもたちの指導を考えていることがわかる。

また、読書について「教師の読み聞かせや、児童による読み聞かせ、一斉指導で読書が苦手な児童への多数の本の紹介などをして、読書に親しませるよう心がけた。」という意見もあった。今後も、多くの本に触れさせる機会を増やしたり、読み聞かせ等の工夫を継続したり、読書に親しむよう取り組むようにしたい。

保護者の評価においても「①子どもは、白根飯野小学校に楽しく通学している。」(98%)「②子どもは、仲間と協力し、行事や活動に粘り強く取り組んでいる。」(99%)、「⑥子どもは、人の心を思いやり、豊かな心を育てている。」(98%)「⑤子どもは、学校・学年・学級で理解され、心の居場所を持っている。」(97%)、「⑥子どもは、人の心を思いやり、豊かな心を育てている。」(96%)といずれも高い評価を得た。

特に「11 ご家庭では、子どもに善悪のけじめを教え、しつけに力を入れている。」(96%)の項目も高い結果となった。この結果からも、家庭においても相手の立場になって考えることの大切さを指導していただいていることが分かる。

教職員がいじめ防止へのきめ細かな対応を行い、家庭と連携して、子どもに豊かな心を育んでいけるように2学期もしていきたい。

(3)「健やかな体」について

教職員自己評価において、「1 運動の苦手な子どもも自己の進歩や達成感を味わわせ、運動習慣を育むことができたか。」「2 日常的な運動・食事・睡眠と健康について理解を深め、健康な生活習慣を育むことができたか。」の両項目とも100%の肯定的な評価となった。また保護者の評価においても、「10 子どもは安全を意識して登下校している。」(92%)、「12 御家庭では、早寝・早起き・朝ごはんに取り組んでいる。」(95%)の項目についても肯定的な評価が高い結果となっている。

今後も日常的な運動や食事、睡眠への理解や取組、また休み時間等の外遊びの励行や夏季休業中に行った「アウトメディア」の日を家庭で設定するなど、今後も家庭や地域と連携を図りながら、取組を継続していくことが大切だと考える。

(4)「グローバルに活躍する人材」について

教職員自己評価2項目「②外国語(外国語活動)を通じて、児童が明るく表情豊かに表現し、理解しあえる喜びを体験し、異文化と共生する態度を養うことができたか。」「③教科等を有機的に連携させ、自ら学び、学び合い、協働して解決する教育課程の工夫に努めることができたか。」(96%)の2項目とも肯定的な評価が高い結果である。さらに「①児童が、学ぶ

ことを通して、自己や他者の良さ、人として生きる良さに気づき、進んで社会と関わる意欲や態度を育むことができたか。」の1項目は100%となっている。この項目は、昨年度大変低かった(77%)が躍進的に伸びた結果となった。要因として、昨年度は、未だコロナ禍により人との関りが少なかったことが影響されたが、今年度は他者との交流が活発に行われていることが挙げられる。これから益々、外国語の知識や技能のみならず、学ぶことを通して自己や他者の良さに気づき、社会と関わる意欲や態度の育成を図ることが大切となる。また協働的な活動も増やし、自己肯定感や自己有用感を向上させる取組を継続して行っていきたい。

(5)「特別支援教育の推進」について

教職員自己評価においては、4項目すべてにおいてA評価が高い結果となっている。特に「③保護者相談を丁寧に行い、連携した指導に努めることができたか。」の項目が100%と高かった。その理由として、①「特別支援教育コーディネーターを中心とし、校内支援委員会やケース会議を開催し、情報共有と指導・支援内容の相談・確認を行っていること。」、「個々のニーズに応じた指導や支援ができるよう、積極的に関係機関とも連携を図りながら対応してきたこと」が挙げられる。

特別支援学級だけでなく、通常学級においても課題を抱え、それぞれの特性に応じた支援が必要となる児童が増えてきている状況ではある。職員の支援体制にも限界はあるが、今後も全職員で情報を共有しながら、個に応じた支援・指導を行っていかねばならない。

(6)「保護者・地域との連携」と「小中一貫校への取り組み」について

教職員自己評価の「①適切な情報発信等を通して、保護者・地域との共通理解を図るとともに、その力を活用し、ともに支えあう地域の学校づくりに努めることができたか。」「②PTA活動等を通して、保護者との協力関係を築くように努めることができたか。」(100%)2つの項目で肯定的評価となった。また保護者アンケート「⑦学校は、情報発信(連絡帳、おたより、ホームページ等)として、子どもの教育活動を伝えている。」(97%)の結果より、学校と保護者との情報共有や連携がとれていると考えられる。今後も継続して、適切な情報を発信することで、保護者や地域との連携を深めていきたい。

PTA活動に関する評価では、教職員自己評価の「PTA活動等を通して、保護者との協力関係を築くように努めることができたか。」(100%)の項目の評価が高い。その一方で保護者のアンケートでは「14 PTA活動に進んで参加している。」項目は否定的評価が21%と早急に改善が必要となる結果となった。昨年度危惧されていた「15 お子さんを地域の行事に参加させている。」の項目肯定評価が81%と転じた。コロナ禍を過ぎ、制限が解除されて通常の生活に戻り、地域の行事が再開されてきたことが大きく影響していると考えられる。今後も、保護者・地域社会と連携しながら、社会に開かれた教育活動の充実を図っていきたい。

本校は令和4年度より「小中一貫校南アルプス市立白根飯野小学校」としてのスタートを

切った。保護者アンケート「16 小中一貫校として、3校（白根巨摩中、白根飯野小、白根東小）が連携して取り組み教科指導を行っていることを理解している。」(84%)と肯定的評価であるが、小学生と中学生の交流をさらに望む意見があった。小中一貫校の充実を図る上でも、地域に理解された教育活動を行う中核とした教育活動を行うことが大切であり、取り組み内容を地域住民や保護者に、情報を発信して、幅広く理解してもらえることが今後も重要となる。

[3]学校関係者評価委員の助言等

- PTA活動に参加する意見が否定的回答となっているのが気になる。他の県や地域でもPTAをなくすという考えがある。また、PTAという組織を守るためにやっているという現状もある。飯野地区は、PTA活動の役割や内容について、確認をする必要があるのではないかと。授業参観への参加もPTA活動という考えもよい。本来、登校班の様子を親が見てくれているのもPTA活動だし、休みの時に親が学校へ連絡することもPTA活動だ。こうした意識で考えると「飯野保護者と先生の活動の会」と捉え、名称を変えることも必要か。親子で楽しめる行事や親子でチャレンジする内容のものを増やすことで、参加意識が高まることも考えられる。
- 担任を変えたと報告された。担任以外に子どもたちがいろいろな大人との関わりが増えることはよい。また、担任を交代する理由として、子どもたちを大切にしたいという学校側の姿勢に敬意を表したい。担任一人が授業を全部やることは、力があればよいが、負担がかなり大きく、力がないと教育が成り立たない。低・中・高のスタッフ、いろいろな先生方が学級に関わり相談できる体制や風通しをよくしながら授業を行う必要がある。
- 学級崩壊は、小中一貫校を推進していくと改善されるのではないかと。教員確保は35人学級という制度があることで、先生の人数が足りなくなっているともいえる。人手不足、教職はブラック企業と言われているが、まず、担任が学べる環境を整え、教科担任制を進めていく必要がある。クラスを二つに分けて授業を行ったり、教科担任制を取り入れたりすることで、少人数できめ細やかに対応できたり、複数の先生の授業をしてもらうことで新しい刺激にもなったりし、子どもたちにとっても教職員にとってもプラスになる。このことは、小学校では人を確保しないと進めることができない。職員が休めばそれも負担になる。フリーの職員がサポートしたり、教職員同士で授業を参観したり、学んでいく体制が重要で、閉ざされた学級では、教育の進歩はない。
- 飯野小祭りの復活を望む意見があり、当時の地域の方や、学校の活力を思い起こさせる。今年度は150周年を迎える年である。新しい繋がりや、全国等、外に目を向けることも大切である。例えば「飯野小学校」という学校が全国に9校ある。そういった学校と交流することも面白い。150周年を機に、学校へ足を運んでみたい人も地域にいるのではないかと。思い出深い学校について知る良い機会なので、インタビューやアンケートなどと

ってもいいのではないか。

- 親同士のコミュニケーションの欠如が解消され、親同士の関わりやつながりが増えることを願っている。
- タブレットを市全体で 100 個近く修理したと聞く。是非、物を大切にするように指導をお願いしたい。タブレットを使う頻度も多く、子どもたちは操作を早く覚えることができる。また、インターネット等で想像力が膨らむこともある。ただ、身近な、道すがらにある「よいもの」に目を向けて、機械力でない想像力を培ってほしい。
- ICT はある程度適当にやったほうがよい時もある。みんなで面白いからやってみようとか、ワクワクすることを一緒にやってみようとするところが学校だと思う。人との繋がりやコミュニケーションを大切にすることを、子どもたちに伝えていってほしい。